



三木高大 自治会新聞

令和2年3月号 (No.164)

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 松本 桂
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 2020(令和2)年3月5日
<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>

高大の思い出

来賓の皆様と在學生に迎えられ、あの日からもう四年が経とうとしています、今振り返ればあっという間の四年間でした。

毎年目まぐるしく色々なことがあり仕事に行っている時よりも考えることの多い学生生活でした。一年生の時は知っている方が2~3人から始まり、一年生が終わる頃には班に仲間が増え、二年生になると他の班にも友達が増え楽しい学校生活でした。私たちの学年は親睦会を大切に交流をはかっています。親睦会の内容も各班ごとに毎月計画を立て、あちら、こちら、又挑戦や体験などを行ってきた学年です。いつも多くの方が参加し「卒業後も続けていこうね」と話し合っています。これも又つながりの絆です。家族の方の看病や本人の体調不良などで長期欠席されて学校を退学された方もいます。入学は47名で門をくぐり残念なことに36名で卒業式を迎えることになりました。

忘れられない思い出は毎年実施している体育祭、中心となって行っていく三年生では、今年こそ、今年こそと言いながら三年が来てしまい、努力の結果優勝という大きな賞を頂き一回ぼっきりですが忘れられない思い出になりました。

最終学年では北海道の卒業旅行、学校生活の中で一番楽しかった二泊三日の旅行でした。体育祭の応援合戦で熱唱した歌を旅行先で何度も踊り、歌っていました。歳を重ねても仲間と来た四年間は大切な思い出です。卒業しても「親睦会は三か月に一度は会おうね」と話しています。まだまだ元気なクラスです。最後になりましたが学校で学んだこと仲間と過ごした四年間のことを大切にしまだ残っている人生をエンジョイしていきます。井上学長はじめ事務局の先生方本当にありがとうございました。

副会長 4年1班 禰占 重子



平成28年度 三木市高齢者大学 入学記念 平成28年4月7日(木)



卒業生に贈る言葉

春の訪れを感じさせるこの佳き日に、三木市高齢者大学を卒業される4年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。今皆様は、この高大の4年間でどのように振り返っていらっしゃるのでしょうか。

多くの人との出会いの中で、様々な思い出を築き上げてこられたと思います。常に私達後輩の前を歩き、お手本となって下さった先輩方の背中には、私達にかけがえのないものを、残して下さいました。

思い起こせば、自治会活動においては、「学んで広げる仲間の輪」とスローガンを掲げ、『学びのなかで、健康で「生き生き仲間」として、その絆の和を続けられるように』と、指針を示されました。

部活動においても、つねに私達の先頭に立ち、リーダーシップを発揮して下さいました。机上の学問では得ることが出来ないものを教えて頂きました。

一方では、日頃は自主性を重んじ、強制しないクラス風土に見えていたのが、体育祭では突如団結力を示し、優勝するという外からは推し量れない神秘さを持ち合わせている不思議な先輩達のようにも見えました。

しかし、正直お別れするにあたり寂しさが募ります。それでも、先輩方が築きあげてこられた伝統を継承していくことが私達の使命と任じ、今後も日々精進していくことを改めてお誓いいたします。この瑞穂の学び舎で学ばれた尊いもの、そしてめぐり会った方々との絆を生涯の宝とし、新たな道に邁進されることを願っています。

自治会会長 松本 桂

2月の教養講座から

戦国武将 明智光秀の生涯「麒麟が来る」

講師：講談師 旭堂 南鷹 様

今までに、漫才とか落語は、見ること、聞くことはあったが講談はあんまり無かった。講談と落語の違いは何か？落語は、会話によって話が進む（フィクション）。講談は、ナレーションによって、話が進む（ノンフィクション）。

太平記の読み聞かせが、講談のルーツと聞いたが、特にシリーズもの、太平記を始め、忠臣蔵、水戸黄門、難波戦記などが人気であるようだ。会場には、



松の木の幕が吊ってあり、釈台と張り扇、扇子が必要。時に誇張しながら、釈台を叩き、独特の語り口調によって、面白おかしく聞かせる。誰もがシリーズものが多いので、落語のように落ちがなく、話の途中、面白い所で、「今日はこれまで」と言って、止めることが多いようだ。

今回の講談も信長が家康へのもてなしをするよう、光秀に命じ、そのもてなしを光秀が失態する場面から話は始まり、最後は、ご存じ本能寺の変で終わり。

現在の若者は、信長、秀吉、家康に興味が無いのか・・・話に困ると言っておられたのが、印象に残った。

1年3班 井上 朝夫

令和元年度のファイナル全校行事として、第28回高齢者大学大学祭を2月22日(土)、23日(日)に厳しい環境下において無事終えることができました。全校行事としては唯一、一般の方々をお迎えして高齢者大学の魅力並びに、高大生の日頃の成果発表と新入学生のためのPR広報の役目として重責を担った行事です。演技、作品、大学祭の運営、28回大学祭の特徴、伝統芸能と現代性との融合性、大学祭の課題も、上手く対応出来たかどうか、次年度の方々に負担を少なくしてうまくバトンタッチできたかは、参加者一人一人のご判断にお任せ願いたいと思います。

昨年9月準備スタートから大学祭開催日まで、全員一丸となつてのワンチームとして初めての1年生、より早くいいモノづくりに励まれた2年生、責任学年として集大成の3年生、現役最後の年となりお忙しい中、時間を割いて協力、アドバイスを頂いた4年生、実行委員、準備委員、各クラブ長をはじめ部員、同好会の方々、皆様のご協力が無事終了できました。

祭りの後は、感謝の気持ちでいっぱい、ありがとうございました。ご機嫌を損ねたことがあればご容赦下さい。良き思い出が記憶となった嬉しさを、感じ取って頂けたら実行委員にとって無上の喜びです。大学事務局の皆様、準備期間中沢山のアドバイス、ご協力、叱咤激励を頂きありがとうございました。最後に屋外の寒い中での駐車場係、受付、式典、展示、司会、喫茶等々、ご尽力いただいた方々全員のご紹介は叶いませんが、ワンチームとして大学祭を成功させて頂いた皆様方、“熱く”厚く御礼申し上げます。

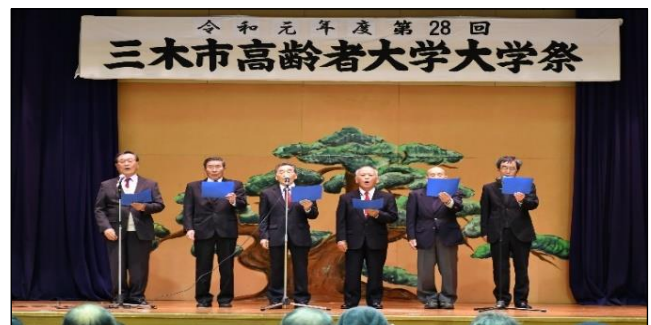
第28回高齢者大学大学祭風景

大道芸によるオープニング

詩吟の魅力満載



民謡踊りの熱演



カラオケフルメンバー熱唱



展示風景とそのほかの演技紹介は、高大ホームページをご参照下さい。

大学祭実行委員長 3年4班 川坂 成眞

ク ラ ブ 紹 介

クッククラブ

賑やかに料理をして、会話を楽しみながらおいしく食べる。そんな食事会を、月1回、土曜日に行ってみませんか？料理のクラブですが、女性が10名、男性が12名で、料理上手な人は少なく口ばかりの料理人の多いクラブです。4つの班に分かれて、それぞれが4種類のちょっと凝った料理に挑戦しています。



先生曰く、「男の料理」で、比較的簡単な料理だそうです。10時ごろから作り始めて、12時ごろには片付けも終わる感じの活動で、いつも弁当箱でその日の夕食分も持ち帰れる豊かな食を、楽しめるクラブです。

年楳小夜子先生とアシスタントの財田裕子先生の指導は、優しく丁寧で、いつも失敗ばかりの小生にも、決して怒ることなく笑顔でカバーしてくださり、毎回至極美味しい食事を楽しませてもらっています。また、料理についてどんなつまらない質問にもわかりやすく詳しく答えてくださいます。いろいろなちょっとしたコツも教えていただけますよ。メニューの幅も広がります。

料理が苦手な方も料理が大好きな方も、大歓迎です。心配することなく、食べることを楽しむという目的も、大いに結構ですので、一人でも多くの学生の入部をお待ちしています。費用は、入会金1,000円、部費月300円、食材費月1,200円ですが、中身は大変充実した食事になっています。楽しい食事会を一緒にしてみましょう。

2年1班 福田 治雄

園芸クラブ

楽しんで大地の恵みを頂く園芸部

現在園芸部は11名のOBと9名の学生が在籍し、毎週水曜日の9時からお昼前の約3時間弱（途中でおやつタイムがあります）の園芸作業を行っております。農園は部員個人に割り当てられた畝と部員全員で管理する共同畝があります。昨年の夏は全ての野菜の出来が良く、特に共同畝で作ったスイカは40個余り出来て部員は3個づつくらいは持ち帰りました。



私の個人畝でも茄子や万願寺などが沢山採れて、妻は“スーパーであまり野菜を買わなかった”というくらいでした。しかし暖冬の今冬は今一つの出来で白菜やキャベツの結球が悪く自然の力には勝てません。部活動は農園だけでなく年2回の収穫祭には部活動を離れたOBの方をお招きして旧交を温めたり、大学祭では収穫した野菜の販売を行っています。活動を語る上で欠かせないのがOBの方で、技術的なアドバイスや作業日報の作成及び連作障害を防ぐための作付け計画等で現役学生のサポートをして頂いております。また部では学内だけでなく学校周辺の農家の方との交流もあり、ため池周辺の草刈り作業を共同で作業実施したり、不要になった農業用品を頂いたりと良い関係を続けています。丹精こめて自分で作った作物を収穫したり、出来たスイカを孫たちと一緒にエンジョイしたり出来る楽しい園芸部活動をもっと多くの学生に体験して頂きたいと思います。学生数が減少する中ではありますが新入部員の勧誘を図っていきたくと思います。園芸クラブ部長 2年4班 原田 典彦